

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079200202
法人名	有限会社 ヒューマンケア
事業所名	グループホーム 小春の家
所在地	福岡県田川郡香春町大字鏡山268番地 (電話) 0947-32-7889

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成20年4月24日	評価確定日	平成20年6月16日

【情報提供票より】 (平成20年3月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 7月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 6人, 非常勤 10人, 常勤換算 5.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造作り 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年3月31日現在)

利用者人数	15 名	男性	6 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	江本医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、山裾から広がる小さな住宅街を通りぬけた、閑静な小高い丘の上に建てられた2階建ての建物である。敷地内には、利用者と職員と一緒に植えた野菜や花の畑が2ヶ所設けられ、日々の園芸に欠かせないものになっている。職員は利用者一人ひとりを尊重したケアに努め、職員同士の積極的な意見交換を行い、質の向上を図っている。希望に添った月3回のドライブや食材の買物、ほぼ毎日の散歩等、外出する機会が多く、利用者の楽しみとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 評価結果の改善点に沿ってミーティングを行い、特に職員の知識・技術の向上を目指し、重点的に内部・外部研修を行っている。苦情窓口は、外部機関も含めて家族に説明できるよう、玄関に大きく掲示する等、改善が進められている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は自己評価に対する関心も高く、全職員がミーティング等で検討し、各ユニットの責任者と管理者が集約を行った。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を定期的に開催し、事業所の状況を報告すると共に、外部評価の改善課題の取り組みも報告している。出席者からの意見を取り入れ、ケアの質の向上を目的とした他事業所との交流を計画する等、それらの意見を運営に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 家族会があり、年1回程度交流会を兼ねた食事を設け親睦を図っている。訪問された家族には声かけし、家族が意見を言いやすいような雰囲気作りをしている。運営推進会議にも家族が参加しており、家族の意見は運営や介護計画に反映されている。苦情に関する第三者窓口についても説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 同じ敷地内にある代表宅が自治会に加入し、地域の行事である文化祭や祭りに参加している。日常的に挨拶を交わす等、地元の人々と交流することに努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念はあるが、理念に地域密着型の視点が取り入れられていない。	○	全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で介護の質の向上を目指し、日々の実践に取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同じ敷地内にある代表宅が自治会に加入し、地域の行事である文化祭や祭りに参加している。日常的に挨拶を交わす等、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員が意見を出し合い、各ユニットの責任者と管理者が集約を行った。外部評価での前回の課題については、改善計画を作成し主に職員の研修機会を増やしたり、苦情窓口を分かりやすく掲示する等の取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、事業所の状況を報告すると共に、外部評価の改善課題の取り組みも報告している。出席者からの意見を取り入れ、ケアの質の向上を目的とした他事業所との交流を計画する等、それらの意見を運営に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政にパンフレットを持参する等し、地域の介護教室の講師依頼や事業所の研修会の開催等の要望について、行き来し連携を取っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は、権利擁護事業や成年後見制度について内部研修を実施し、資料等を備えている。利用者・家族には利用開始時に職員が説明を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、日常の様子や介護経過の記録を毎月郵送したり、来訪時に個別のアルバムを見せて報告している。緊急時には電話で報告している。金銭管理については、毎月家族に領収書を手渡すかまたは郵送し、出納簿に家族の確認印がある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、年1回程度交流会を兼ねた食事会を設け親睦を図っている。訪問された家族には声かけし、家族が意見を言いやすいような雰囲気作りをしている。運営推進会議にも家族が参加しており、家族の意見は運営や介護計画に反映されている。苦情に関する第三者窓口についても説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限に抑えるため、ミーティング等を通じて職員の意見を聴く機会を多く設けている。職員が代わる時は引継ぎの期間を十分に設け、利用者へのダメージを抑えている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用に当たっては、性別や年齢等で排除せず、介護への熱意や適正を考慮している。職員の能力を發揮できるように研修を行い、不安なく勤務できるように配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権研修は、地区の同和研修に管理者・職員が参加し、事業所内で研修資料を基に伝達研修を行っている。全職員を対象にした身体拘束や虐待問題等についても管理者が内部研修を実施している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>初任者研修や経験に応じた外部研修、資格取得を希望する職員への指導や研修参加への配慮等を行い、職員育成に取り組んでいる。外部研修参加後は、参加した職員がミーティングで報告を行っている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市郡部の事業所連絡協議会のネットワークに加入している。管理者が講師になり、国家資格取得のための受験対象職員の実技指導等を行う等、相互的な勉強会や交流を行っている。</p>	○	<p>管理者だけでなく、職員も含めた同業者と交流する機会を持ち、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしてほしい。</p>
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に見学等の受入れをしている。また職員が自宅・病院・施設等を訪問し、相談も行っている。やむを得ず即利用になった場合は、利用者と接する機会を増し、安心感を持ってもらうように努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者は、お互いの悩みなどを話し、共感したり励まし合う場面があり、職員が生活の知恵を教えてもらうことも多い。職員に昔の歌を教えたり、労いの声かけを行い、お互いに支えあう関係がある。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自分の意思を伝えられる利用者には今日何をしたいか等の要望を聞き、意思疎通が困難な利用者には家族から情報を得て、思いや希望の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は家族から希望を聞き、カンファレンス会議を開いている。職員の気付きや意見・アイデアを反映しながらその人らしい計画を作成している。なお介護計画には本人・家族の希望等が明記され家族の押印がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は4ヶ月毎に見直しを行っている。毎日の介護記録を介護要約表で評価しながら、関係者と協議し、サービスの内容を検討している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の入院時には家族及び医療機関と協議し、早期退院に向けて連携を図っている。通院や送迎など、必要に応じて個別支援をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医への受診支援を行っている。また月1回協力医院の往診があり、状態の変化を伝えるなど支援している。家族には受診の報告をしているが、状態によってはその都度連絡をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	“看取りの指針”を作成し、家族・医療関係者・職員で度々協議している。また運営推進協議会においても話し合い、方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉かけや対応に配慮している。記録などの個人情報の取り扱いについては採用時に書面で誓約させるとともに、ミーティングで職員の意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日そのときの本人の気持ちを尊重して一日の過ごし方を支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。職員と利用者が同じテーブルで同じ物を食べ、楽しく食事が出来るよう雰囲気作りにも配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望などに合わせて、柔軟に対応して入浴を楽しめるよう支援している。入浴拒否の利用者については、臨機応変に入浴のタイミングや意向・希望に応じて働きかけ支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることや得意なことを把握して、料理・畑仕事・梅干しづくり・誕生会の歌や踊りの披露など楽しみごとも含めて一人ひとりに合った支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の状態や希望に応じて、職員と買物に行ったり、週2回程度周辺の散歩に行ったりしている。また、外食やドライブに行く機会も設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室も玄関も施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守り等を行っている。チャイムを設置している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、1回は消防署の指導のもと行っている。災害対策マニュアルを作成している。地域住民への呼びかけは行っておらず、非常食や備品が準備されていない。	○	今後はいざという時のために、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常食や備品を準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者全員の栄養摂取量及び水分摂取量は記録されている。また利用者の状態や嗜好・要望に合わせて職員が献立を作成し、年1回栄養士の指導や医師の専門的なアドバイスを受ける等、利用者の健康管理に努めている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ゆったりとした居間は、居心地良く過ごせるよう音や光に対して十分に配慮し、季節感あふれる壁掛けや生花を飾り、家庭的な雰囲気でも過ごせるよう工夫している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の扉には利用者の好きな言葉が貼られている。使い慣れたタンス・仏壇・絵画・テレビ・ソファなどが持ち込まれて、安心して居心地良く生活できるよう配慮している。</p>		

※ は、重点項目。